令和５年１０月１６日（月）１０：３０～１２：００

東京グリーンビズ
アドバイザリーボード（第２回）

１．委員紹介及び挨拶

２．東京都の取組

３．委員によるプレゼンテーション

４．意見交換

アドバイザリーボード　メンバー

（以下、五十音順）

安藤　光義　委員（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

伊藤　香織　委員（東京理科大学　創域理工学部教授）

小川　みふゆ 委員（東京大学大学院農学生命科学研究科特任研究員）

小林　光　　委員（東京大学　先端科学技術研究センター研究顧問）

酒井　秀夫　委員（東京大学名誉教授）

島谷　幸宏　委員（熊本県立大学　特別教授）

下村　彰男　委員（國學院大學　観光まちづくり学部教授）

吉高　まり　　委員（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社フェロー（サステナビリティ）
東京大学教養学部 客員教授）

渡部　翠　　委員（株式会社ユーグレナ ３代目CFO）

東京都の取組

第１回会議で頂いた主なご意見（振り返り）

〇緑のあり方・役割に加え、環境、植物生態や農・林業、グリーンインフラなど、**各専門分野の視点から、多様なご意見**を頂いた

〇また、「**『緑』の捉え方は幅広く**、行政が縦割りで分割統治しているため、**横串でみられるようにすべき**」という東京都へのご意見も頂いた

（頂いた主なご意見）

・**東京の苗、実生等を育てて緑地をつくる**など、**遺伝的多様性の保全**について提案していきたい

・行政の積極的な買取により、残された**生産緑地の保全が重要。屋敷林、平地林等の保全も必要**

・林業振興には**「伐る、使う、植える」ビジネスモデルデザイン**や**若い人に緑に親しんでもらうことが大事**

・緑は土の上に成り立っており、**水循環の仕組みを整えることが重要**

・緑は、**植物系の部分のみで考えるのではなく、ネイチャーベースドのところを捉えて緑を使っていくことが重要**

・**適正な緑の管理のあり方をもっと発信**していくべき

・**地域コミュニティの再構築・地域の活性化を念頭に置きながら考えていく必要**がある

・東京の緑は二次的な自然。**歴史的な文脈で東京の暮らしの豊かさを伝えていくうえでも緑は重要**

・**保護と利用の好循環の仕組みをモデル的に構築**し、東京から全国に発信できると良い

・**緑がどういうものか、定義など、**委員の中でもある程度**認識を揃える必要がある**

・単なる自然という資本、また自然に伴う文化ということだけではなく、**新たな価値を考えていく必要がある**

・東京は**原生林ではなくほとんど二次林。質の高い管理**が必要

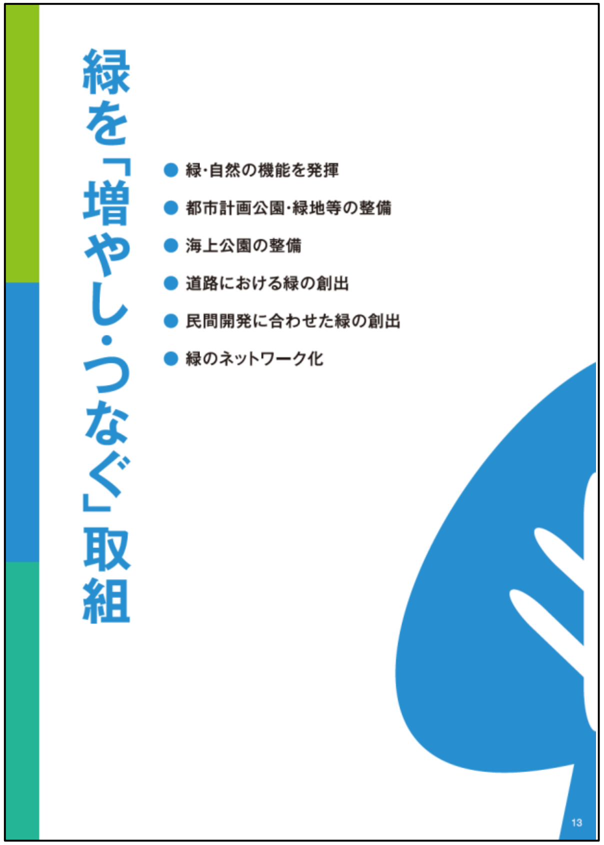
・**「緑」の捉え方は幅広い**が、行政が機能により縦割りで分割統治している。**横串でみられるようにすべき**

東京都が進めている緑に関する取組

「東京都の緑の取組」

○都が進めている緑に関する取組を**「まもる」「増やし・つなぐ」「活かす」という観点から整理**

○今後、委員の皆様のご意見なども取り入れて、施策を強化し、**バージョンアップしながら、都民にしっかり伝わるよう情報を発信**



東京都が進めている緑に関する取組

「東京グリーンビズのロゴマーク」

〇東京グリーンビズのムーブメントの展開に当たっては、**緑に関する取組を広く一般に知っていただくことが重要**

〇「みどりと生きるまちづくり」をコンセプトに**発信を強化**し、**都民、事業者の皆様とともに東京グリーンビズのプロジェクトを進めるため、ロゴマークを作成**

コンセプト「みどりと生きるまちづくり」

- **文字を植物に見立て、緑を増やしていくことを表現**
- **緑の保全活動等に取り組む企業や団体の皆様など、ご利用可能**

委員によるプレゼンテーション

「これからの100年を見据え、東京の緑に必要なこと」

- 安藤　光義　　委員
- 伊藤　香織　　委員
- 小川　みふゆ　委員
- 島谷　幸宏　　委員
- 吉高　まり　　委員

意見交換

今後の進め方

進め方

第２回（10月16日）：　有識者によるプレゼンテーション

（安藤委員（農業）、小川委員（植物生態）、伊藤委員（都市づくり）、島谷委員（グリーンインフラ）、吉高委員（ESG投資））

第３回（11月上旬）：　有識者によるプレゼンテーション

（下村委員（公園）、酒井委員（林業）、渡部委員（Z世代）、小林委員（環境））

第４回（11月中旬）：　意見のとりまとめ（事務局）